学年末試験に全力集中を

―「主体的に学ぶ力」を身に着け、全教科 100 点を目指そう―

開倫塾
塾長 林　明夫

Q：学年末試験でよい点数を取ることは大事ですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)2 月中旬から下旬にかけて行われる学年末試験で全教科 100 点満点を取ることは、学校で学ぶすべての人にとってとても「価値」があること、「意味」のあること、大切なことです。

各教科の学年末試験に出題される内容は、前の定期試験の続きが 3 分の 2 で、残り 3 分の 1 はその教科の 1 年間の内容です。

(2)各教科の学年末試験で 100 点満点を取るためには、その教科の 1 年分の内容をスミからスミまでもう一度学び直し、正確に身に着けなければなりません。

(3)学年末試験で 100 点満点を取ることがとても「価値」があり、「意味」があり、大切なのは、そのために各教科の 1 年分の内容をスミからスミまでもう一度学び直し、身に着けるという取り組みをするからです。

Q：塾長は試験は何のためにあるとお考えですか。

A：(1)これはあくまでも私の考えなので、参考までにお聞きくださいね。

(2)私は、学校の定期試験をはじめ入学試験や資格試験、採用試験など世の中のあらゆる試験には一つ一つ「意味」があると考えます。試験を受けるときには、その「意味」をよく「理解」した上でそれに備えることが大事であると考えます。

(3)例えば、これから皆様が受ける学年末試験は、その学年の総まとめの試験です。学年末試験の「意味」・「目的」は、1 年間の学習内容がどのくらい身に着いているかを評価することです。十分に身に着いていれば誰でも 100 点満点が取れ、高い評価を得ることができます。

(4)私が学年末試験において大切だと考えるのは、100 点満点を取るまでの取り組みです。よく考えれば、こり試験で 100 点満点を取るためには、1 年分の学校の教科書や教材、授業中のノートなどをすべて学び直してスミからスミまで十分に「理解」し、スミからスミまで「定着」させる、つまり、身に着けなければなりません。これに加えて計算や問題練習をして、応用問題もできるまでにしなければなりません。

(５)学年末試験で 100 点満点を取ることはもちろん大切ですが、それよりもはるかに大事なのは、100 点満点を取るためにこのような取り組みをすることだと思います。すべての試験において、このような取り組みのほうが結果そのものよりもはるかに意味のあること、尊いことであると私は考えます。

(６)試験を受けるときに大切なのは、よい点数を取るためにすべてのエネルギーを集中して試験の範囲をスミからスミまでよく「理解」し、「定着」させる・身に着けるという取り組みです。

(７)「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。意味のよくわからないことばに出合ったら、必ず辞書で意味を調べて「理解」する。内容がよく「理解」できたら、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」、つまり「定着のための 3 大練習」を繰り返し行って「定着」を図る。そうすれば、それまでよくわからなかったことがよくわかり、身に着くので、試験でよい点数が取れるようになります。

Q：試験を受けることの「価値」や「意味」とは、よい点数を取ることを目標にして、それまでに学んだことを正確に身に着けるということなのですね。

A：(１)その通りです。例えば、高校入試に向けた学習の「価値」や「意味」とはもちろん合格することです。ただ、それと同時に、中学校 3 年間で学んだ内容を学校の教科書を中心にしてスミからスミまで正確に「理解」すること。さらには「理解」した内容のすべてをスミからスミまで正確に「定着」させる・身に着けることです。その結果「合格点」を取って希望する高校への進学を果たし、中学校の続きの学習をしっかりと行う。これも「価値」があり、「意味」深いことです。

(２)よく考えれば、中学校での学習内容は高校や大学など上級学校ですべて役に立ちます。また、社会に出て仕事をしたり、社会的な活動をしたりするときにすべて役に立ちます。豊かな人生、多様な選択肢のある人生を歩む上で必要不可欠なものばかりです。

　そのような中学校の学習の総まとめを、高校入試の受験勉強を通して行っているのだとお考えください。

(３)受験勉強の大切さ、「価値」や「意味」を十分に「理解」した上で、では希望校への合格を果たすためにはどうするかを自分の力で考えてくださいね。開倫塾の塾生の皆様には、試験の「価値」や「意味」をよく考えて学習するという取り組みを通して、少しずつでもよいですから「自主的に学ぶ力」を身に着けていただくことをお願いします。

―2015 年 1 月 13 日―